

臨床研究の名称	分類不能型間質性肺炎における AI 画像解析と臨床的特徴をもとにした層別化とマルチオミクスによる重症度・予後予測因子の評価
研究責任者の所属・氏名	呼吸器内科 医長 北村 英也
研究の概要	【目的】 間質性肺炎は治療選択肢が限られ、進行性の治癒の困難な病気であることが知られています。中でも分類不能型間質性肺炎は、特発性間質性肺炎(IIPs)において臨床、HRCT 画像、病理データが不十分である場合やこれらのデータに大きな不一致がある場合など、多分野（呼吸器内科医・放射線科医・病理医）による集学的検討（MDD）を行っても最終診断が得られない場合に診断されます。進行性線維化を伴う場合には予後不良になると考えられ、早期診断と早期の治療介入を検討する必要があります。今回、CT 画像や病理画像について AI 画像解析ソフトを使用して解析し、診療データから分類不能型間質性肺炎を重症化リスクや治療方針の観点で層別化し、それに対応するオミックスデータ（遺伝子、RNA、タンパク質など特定の種類の生体分子を網羅的に集め統合解析した大規模な情報の集合）を特定することにより、早期治療介入に役立つバイオマーカーの特定ができないかと考え、研究を行います。 【対象患者】 間質性肺炎または間質性肺炎の疑いと診断され、2019 年 10 月から 2022 年 1 月の間に「新薬創出を加速する人工知能の開発（KCRC-19-0015）」への参加について文書にて同意された方のうち、MDD で分類不能型間質性肺炎と診断された患者さん 【方法】 上記の方を対象に下記情報を収集し検討します。 【使用する情報】 ①上記の同意された先行研究にて収集及び解析した情報 患者背景（年齢、性別、身長、体重、自覚症状、喫煙歴など）、診療時の記録（自他覚症状、治療薬の種類、血圧、心拍数、SpO2 など）、検査結果（CT 画像・X 線画像及び所見、血液検査、呼吸機能検査、6 分間歩行試験など）、病理組織データ、及び所見など ②本研究にて収集する情報 試験開始 6 年後までの診療時の記録（自他覚症状、治療薬の種類、血圧、心拍数、SpO2 など）、検査結果（CT 画像・X 線画像及び所見、血液検査、呼吸機能検査、6 分間歩行試験など）や経過 【使用の開始予定日】

	2026 年 8 月使用開始予定
問い合わせ先	呼吸器内科 医師 岡村 賢、 医長 北村 英也 〒236-0051 横浜市金沢区富岡東 6-16-1 神奈川県立循環器呼吸器病センター 電話番号 045-701-9581 （代表）

2026 年 7 月作成

※ 研究に情報を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益を生じることはありません。上記の問い合わせ先までご連絡いただけましたら、その方の情報は本研究に利用しないようにいたします。

※ 問い合わせ先の担当者が不在の場合は、臨床研究室にお問い合わせください。